

日本語と中国語の「不・無・非・未」

朴 景淑

要旨

本稿では日本語と中国語の否定の造語要素「不・無・非・未」について、それぞれの造語形態から概観した上、「不・無・非・未」の下接語（「不・無・非・未」に後接する二字漢語）と結合語（「不・無・非・未」と結合した後の三字漢語）の品詞転換機能について考察した。

日本語と中国語の結合前後の品詞転換機能として、「不 N」の場合については日本語・中国語ともに結合前後で品詞転換機能がみられるが、「不 A」の場合については日本語・中国語ともに品詞転換機能がみられない。また、「不 V」の場合については、日本語には「V→A」の品詞転換がみられるが、中国語においては結合前後で品詞転換がみられない。「無 N」「無 V」の場合については、日本語と中国語のいずれも結合前後で品詞転換を生じ、「無 A」の場合については、日本語には品詞転換機能がなく、中国語では「無 A」の結合形態がみられない。「非 N」「非 V」「非 A」の結合形態は、日本語では3種すべてみられるが、中国語では「非 N」と「非 A」の形態が存在する。また、日本語において「非 V」のときには、「V→A」の品詞転換機能がみられる。「未 N」「未 A」の形態は日本語・中国語ともにみられない。一方で「未 V」の形態は日本語・中国語ともに存在し、そこでは「V→A」の品詞転換がみられる。

1. 調査対象および分析方法

本稿では日本語と中国語の否定の造語要素をそれぞれの造語形態から概観した上、NTT データベース『日本語の語彙特性 第7巻』から「不・無・非・未」を含む三字漢語の日中同形下接語（「不・無・非・未」に後接する二字漢語）を品詞別に分類し、中国語の否定接頭辞との接続可否を検討し、日本語と中国語の間における「不・無・非・未」の下接語と結合語の品詞転換機能の相違点を明らかにしたい。

語に形態変化がある膠着語としての日本語と、形態変化のない孤立語としての中国語との双方の間での品詞の比較は極めて困難である。しかし、語の文中における機能、たとえば修飾成分になり得るか否かによって両言語の比較は可能であると思われる。

以下用例辞典として日本語においては聞蔵 II ビジュアル（知恵蔵）を利用する。中国語においては <http://paper.people.com.cn>[人民网, 报刊杂志（新聞雑誌）]で用例を検索したものである。

2. 日本語と中国語間の品詞性の統一基準

野村（1998）では日本語の品詞性を次のように分類している¹。

「事物類（N）…助辞ガ・ヲをとめない、述語に要求される成分となる。

動態類（V）…スルをとめない、動詞として文の成分となる。

¹野村雅昭（1998）「結合専用形態の複合字音基」（『早稲田大学日本語研究教育セター紀要』11）を参考とした。

様態類 (A) ...ナ (ノ)・シイをともない、連体修飾成分となる。

副用類 (M) ...単独でまたはニ・トをともない、連用修飾成分となる。」

中国語においては語の形態変化はみられないものの、野村の分類基準に従って、上記の下線部の一致性を求める方法は可能である。

本論では中国語の品詞性を次のように分類する。

事物類 (N) ...述語に要求される成分となる。文の中で主語と目的語になりうる。

動態類 (V) ...動詞として文の成分となる。

様態類 (A) ...連体修飾成分となる。中国語の格助詞「的 (de) 」²を伴い、程度副詞「很 (he) の修飾を受けることができる。

副用類 (M) ...連用修飾成分となる。

3. 日中両言語における「不・無・非・未」の造語形態からの比較

本節では日本語の辞書『大辞泉』、中国語の辞書『汉语大词典』と『现代汉语词典』から「不・無・非・未」を前接する語の形態を比較する。

語の表記からみると日本語には和語、漢語、外来語の三つの表記があるが、中国語では漢字のみ用いる。故に日本語・中国語両者の比較にあたって、日本語の「不・無・非・未」が和語や外来語に結合した混種語を除外し、漢字と結合した形態のみ考察対象とする。「不・無・非・未」の結合形態をそれぞれ表 1～表 4 として示すと、以下のように五つの結合形態に分けられる。

以下表 1～表 4 についてそれぞれ説明する。

表 1. 日中「不」の結合形態³

結合形態	日本語 (語例)	中国語 (語例)
不○	不安 不可 不穩	不变 (変わらない) 不成 (ならない) 不定 (一定しない)
不○再結合	不安神経症 不可抗 不穩分子	不变价格 (不变価格) 不成比例 (比例にならない) 不定形 (一定しない形)
不○○	不確實 不完全 不規則	不道德 (不道德) 不含糊 (あいまいでない) 不平等 (平等でない)
不○○再結合	不確實期限 不完全菌類 不規則動詞	不平等条约 (不平等条約) (1例のみ)

²中国語の「的」は日本語の「的」の機能と異なっている。中国語の「的」は体言と体言・用言と体言を繋げる格助詞の機能を果たしている。

³「○」は一字漢字を指し、「○○」は二字漢語を指す。以下同様である。中国語の語例の後の () のなかにはそれぞれの語の日本語訳を示したものである。

不〇不〇	不増不減 不言不語 不知不識	不言不語 (不言不語) 不干不淨 (きれいでない) 不明不白 (明白でない)
------	-------------------	--

表 1 に示す「不」の五種類の結合形態は日本語・中国語ともに各形態がみられるが、「不〇〇再結合」の形態は中国語の辞書に「不平等条約」の 1 例のみ見られる。中国語においては「不〇」と比べて、「不〇〇」はかなり複合語を作る数が少ない。また「不〇不〇」の形態においては、日本語には「増減」のように対義であるか、または「言語」・「知識」のように、類義の関係をもつ一字熟語のそれぞれの前に二つの「不」を挿入した形式がみられる。この現象は中国語にも同様にみられるが、「不〇不〇」は一つの文法形式として定着しており、日本語に比べてかなり造語力が高いと思われる。

『汉语大词典』によると中国語の「不〇不〇」形態には以下のような用法がある。

① 「〇」の部分に入る二つの漢字の意味が同じ、又は類似した意味を持つ字である。

例：不言不語、不偏不倚、不慌不忙……

② 「〇」の部分の二つの漢字が反義語である。

例：不多不少、不大不小、不上不下……

表 2. 日中「無」の結合形態

結合形態	日本語 (語例)	中国語 (語例)
無〇	無辺 無道 無塩	无声 (無声) 无线 (無線) 无影 (無影)
無〇再結合	無辺世界 無道人 無塩醤油	无人岛 (無人島) 无线电报 (無線電報) 无影灯 (無影灯)
無〇〇	無過失 無記名 無防備	无脊椎 (無脊椎) 无记名 (無記名) 无定形 (無定形)
無〇〇再結合	無過失責任主義 無記名投票 無防備都市	无脊椎动物 (無脊椎動物) 无记名投票 (無記名投票) 无定形体 (無定形体)
無〇無〇	無二無三 (1 例のみ)	无穷无尽 (尽きることがない) 无影无踪 (影も形もない) 无依无靠 (拠り所がない)

「無」については表 2 のように日本語・中国語ともに五つの結合形態のすべてがみられる。日本語の「無〇無〇」の形態に用いられる語は「無二無三」の一例だけ見られ、その他の形態に

ついても量的に中国語と比べてかなり少ない傾向が見られる。また、中国語の「不〇不〇」の形態と同じく一つの文法形式として類義の漢字二字につけることができるが、「上下」のような対義の漢字二字にはつけることができない。

表3. 日中「非」の結合形態

結合形態	日本語（語例）	中国語（語例）
非〇	非売 非行	非凡（非凡） 非礼（非礼） 非命（非命）
非〇再結合	非売品 非行少年	---
非〇〇	非金属 非公開 非合理	非金属（非金属） 非导体（不導體）
非〇〇再結合	非金属元素 非公開会社 非合理主義	---
非〇非〇	---	非亲非故（親戚でも友人でもない） 非驴非马（ロバでも馬でもない）

「非」については五種類の結合形態のうち、表3から「非〇」と「非〇〇」の再結合の形式は中国語にはみられないが、日本語には数多くみられる。中国語において「非對抗性矛盾」、「非条件反射」、「非電解質」のような語が存在するが、いずれも「非對抗」、「非条件」、「非電解」のような「非〇〇」の形に分離できず、「非」は「對抗性矛盾」、「条件反射」、「電解質」の否定になる。また、中国語で「非〇非〇」（「～でもない、～でもない」）の形式が存在するが、日本語ではみられない。

表4. 日中「未」の結合形態

結合形態	日本語（語例）	中国語（語例）
未〇	未開 未決 未熟	未婚（未婚） 未知（未知） 未決（未決）
未〇再結合	未開社会 未決監 未熟児	未婚夫（婚約者） 未知数（未知数） 未決犯（未決囚）
未〇〇	未解放 未成年 未組織	未成年（未成年）
未〇〇再結合	未解放部落 未成年者 未組織労働者	未成年者（未成年者）
未〇未〇	---	---

表4の示す「未」では中国語では「未〇〇」と「未〇〇再結合」の語数がそれぞれ一例のみみられる。日本語・中国語ともに「未〇未〇」の形式がみられない。

3節では日中両言語の結合形態を五つに分類し比較した。次の4節では「不・無・非・未」の機能について両言語の比較を試みる。孤立語としての中国語において「不」は、否定副詞として動詞、形容詞、助動詞を否定することができ、語の数からみると日本語にくらべてかなり膨大になるため、その範囲は限定するのが困難である。ここでは日本語から中国語をみる方法を取り、その相違点を分析する。

4. 日中両言語の「不・無・非・未」品詞転換機能の比較

4-1 「不」の機能の日中比較

日本語における下接語はNの語、VNの語、ANの語があり、そのなかで中国語と形態が同じ語を抽出して比較を行う。

4-1-1 下接語がNの場合

下接語がNの場合、下接語の形態が中国語と同じ語は11語があり、その中で中国語の「不」と結合できる語が6語、中国語の「不」と結合できない語が5語である。

下接語の形態が中国語と同じ語(11語)

衛生 道德 景気 規則 経済 合理 面目 見識 品行 成績 条理

中国語の「不」と結合できる語(6語) 衛生 道德 景気 規則 経済 合理

中国語の「不」と結合できない語(5語) 面目 見識 品行 成績 条理

「不N」の場合、日中結合語の品詞転換機能を(1)に示す。下線、中国語の下線部の日本語訳は筆者による。日本語の用例は(日)、中国語の用例は(中)と省略する。中国語の例文における下線部の日本語訳は()のなかに示す。以下の用例も同様である。

(1)

(日) いささか不埒(ふらち)で不道德な部分もあるが、教科書通りにいかないのが人生ってもの。

朝日新聞/2009年8月9日

道德(N) → 不道德(A)

(中) 消除现实生活中种种不人道的现象。(非人道的な現象)

中国共産党新聞網/2008年10月24日

人道(N) → 不人道(A)

(1)のように日本語においては修飾成分になれない語である「道德」が「不」を前接することにより連体修飾成分になる。同様に中国語でも修飾成分になれない語である「人道」が「不」を前接することにより連体修飾成分になれる語として変化する。「不」との結合前後に文中の品詞性の不一致がみられる。

4-1-2 下接語がVNの場合

「不VN」の場合、下接語の形態が中国語と同じ語は26語があり、すべて中国語の「不」と

結合できる。それは中国語の「不」は一般的に動詞と形容詞を否定し、以下の 26 語は中国語において動詞または形容詞になるからである。

下接語の形態が中国語と同じ語 (26 語)

調和 適応 確定 拡大 履行 均衡 飽和 特定 消化 徹底 統一 連続
干渉 成功 整頓 処分 侵略 注意 一致 起訴 同意 許可 生産 賛成
合格 成立

(2)

(日) 「革命」という不連続な事件によって、中世的なもの、家庭的なものが断絶され、「近代」や「会社」というシステムティックな異物が登場する。

朝日新聞/2003 年 10 月 5 日/

連続 (VN) → 不連続 (A)

「不連続」の下接語「連続」は動態類であるが、「不」が前接することによって様態類になる転換がみられる。

(日) 同社からの一般廃棄物処理施設設置許可申請を不許可 (九八年) とした。

朝日新聞/1998 年 12 月 27 日/

許可 (VN) → 不許可 (N)

また、「不許可」の下接語の「許可」は動態類であるが、「不」との結合語は動詞性を失い、名詞になる転換がみられる。

(中) 胃胀: 感到胃部发胀, 食物不消化, 或者胀气, 胃口堵, 食物下不去。(消化しない)

广州日报/2008 年 6 月 23 日

消化 (V) → 不消化 (V)

これに対して中国語では下接語が動態類のとき、「不」と結合する前後の間で品詞転換がみられない。

4-1-3 「不 AN」の品詞転換機能

下接語が AN の場合、中国語と同形の語は 17 語あり、17 語ともに中国語の「不」を前接することができる。

下接語の形態が中国語と同じ語 (17 語)

穏当 可能 愉快 活発 完全 适当 明確 必要 透明 明瞭 明朗 自由
親切 正確 鮮明 誠実 公平

(3)

(日) 不愉快な読後感がかかる数日は持続する、世にも珍しい小説集を出した。

朝日新聞 / 2009-06-07

愉快 (A) → 不愉快 (A)

(中) 虽然前段时间发生了某些不愉快的事情，个别法国运动员担心中国百姓是否会为他们的比赛鼓掌加油。(不愉快なこと)

人民日报/2008年8月5日

愉快 (A) → 不愉快 (A)

(3)から「不A」の場合については、日本語と中国語の下接語と結合語はともに連体修飾成分になることができ、したがって品詞転換は存在しないことが明らかになる。

以上のように、日本語の「不」がつく下接語と、形態が一致する中国語を抽出して、日本語・中国語の「不」の機能について検討した。中国語は基本的に日本語の動詞と形容動詞にあたる品詞を下接語とし、名詞にはつき難い。日本語では否定文に和語の「ない」を用いる反面、「不」は文の否定はできず、語の否定としての働きをする。これに対して中国語の「不」は「文」としての機能も担っており、その「不」の用法は以下(1)(2)のようにまとめることができる。

①現在あるいは未来の動作・行為、心理状態、願望、好み、可能性の否定を表す。

中国語において「不」は動作・行為を表す語に付くときに意志選択を表し、かつ時制がみられる。過去に行われた動作に対しては「不」を用いて否定することができない。

②中国語の「不」は反復疑問文に用いられる。

- (中) A 同意不同意？(同意しますか、同意しませんか)
 B 不同意(同意しません。)
 A 赞成不赞成？(賛成しますか、賛成しませんか)
 B 不赞成(賛成しません。)

しかし、日本語の「不」の結合語は文としては成り立たない。膠着語としての日本語は「不」の結合語はあくまで「語」であり、「文」にはならないためである。

4-2 「無」の機能の日中比較

「無」の下接語の形態・意味が中国語と同じ語は58語ある。その中で下接語がNの日中同形語は33語、下接語がVNの日中同形語は25語がある。[現代中国語においては簡体字“无”で表記される。]

「無N」の日中同形語(33語)

意義 価値 感覚 関係 関心 政府 技巧 責任 灯火 色彩 秩序 慈悲
 目的 声音 方針 邪気 能力 表情 辺際 資格 規律 利息 資産 国籍
 条件 報酬 一物 一文 期限 重量 重力 過失 事故

「無VN」の日中同形語(25語)

意識 教育 計画 差別 回答 防備 抵抗 統制 批判 分別 自覚 理解
 反応 矛盾 添加 記名 競争 所属 干涉 着陸 担保 修正 潤滑 投票 許可

以上の「無 N」の日中同形語 33 語と「無 VN」の日中同形語 25 語は、すべて中国語の「無」を前接することができる。ただし、日本語における「無」の結合語は「ナ・ノ」をつけて連体修飾成分になり、そのまま述語にも位置づけられる。これに対して中国語では格助詞“的 (de)”をつけて連体修飾成分になり、述語になる場合は独立性を失って、「無」の前に“全(まったく)” “尚(まだ)”のような副詞の修飾を加えることが必要となる。

「無 VN」の場合、下接語は「～する」の形式で動詞になりうるが、「無」は「～がない」という意味であるから下接語には動詞の品詞がくることができず、名詞の品詞のみ現れる。中国語でも同様である。また「無 VN」の日中同形下接語のうち、「意識、差別、分別、自覚、矛盾、所属」などの語は、中国語において動態類の品詞性を持たず、事物類の品詞性を持つ。

「無 N」、「無 VN」の下接語と結合語には次のような品詞転換機能がみられる。

(4)

(日) 無価値な商品を買わされた。

朝日新聞/2005年11月5日

価値(N) → 無価値(A)

(中) 出自《列子・杨朱》的“野人献曝”，意为贡献的无价值的东西，本是一句提建议的客套话。(無価値なもの)

人民日报/2007年12月1日

价值(N) → 无价值(A)

(4)について説明すれば、日本語・中国語のいずれの場合においても下接語の「価値」は連体修飾成分になれない事物類(N)に属すが、結合語の「無価値」は連体修飾成分になりうる様態類(A)の品詞転換がみられる。

(5) 「無 VN」の品詞転換機能

(日) みんなの党に加え、自民、無所属の立候補も含め「三つの選択肢」が残っていた。

朝日新聞/2010年9月9日

所属(VN) → 無所属(A)

(中) 无担保的企业债可能需要谨慎。(無担保の企業)

人民日报/2008年9月19日

担保(VN) → 无担保(A)

(5)では連体修飾成分になれない動名詞「所属」、「担保」が、「無」との結合により連体修飾成分になり、様態類(A)の語に変化する。

4-3 「非」の機能の日中比較

「非 N」、「非 VN」の場合、日中同形下接語は 9 語みられる。その中で、中国語の「非」と結合できる語は 5 語、中国語の「非」と結合できない語は 4 語ある。

「非 N」、「非 VN」の場合、日中同形下接語 (9 語) :

衛生 合理 現実 合法 条理 対称 金属 公開 存在

中国語の「非」と結合できる語 (5 語) : 現実 金属 合法 対称 合理

中国語の「非」と結合できない語 (4 語) : 存在 条理 衛生 公開

「非 N」、「非 VN」の品詞転換機能は次のようである。

(6)

(日) 鉄鉱石、非金属、自動車部品、液晶テレビなどを扱っているほか、原油・ガスなどの資源開発も手掛けている。

朝日新聞／2010 年 2 月 24 日

金属 (N) →非金属 (N)

(日) 防犯のため普段は非公開だが、地域の人がお堂の管理をする毎月 1 2 日の午前中は参拝できる。

朝日新聞／2010 年 10 月 12 日

公開 (VN) →非公開 (N)

(中) 宁夏煤炭、非金属等矿产资源丰富。(非金属)

人民日报/2008 年 9 月 17 日

金属 (N) →非金属 (N)

(中) 虽然热钱涌入通过各种合法和非合法的渠道也在加剧，但是大规模获利回吐的交易成本和监管风险，要比金融开放度高的越南大得多。(非合法な手段)

国际金融报/2008 年 6 月 10 日

合法 (A) →非合法 (A)

(6)のように日本語では「下接語 (VN) →結合語 (N)」への品詞転換がみられるが中国語では結合前後の品詞転換がみられない。

4-4 「未」の機能の日中比較

日本語と中国語の「未」は動態類の語の前に前接する。日中同形下接語は 13 語みられる。

「未 VN」の日中同形下接語 (13 語)

解決 開拓 成熟 確認 開発 決定 経験 完成 発達 発表 処理 組織 成年

上記の 13 語については「経験」の 1 例を除いて、すべて中国語でも「未」と結合できる。「経

験」については中国語では「経験する」のような動詞の用法に用いることができない。「経験が多い/少ない」のような名詞の用法しか存在しない。中国語の「未」は日本語と同じく動態類の語に前接するので、中国語において事物類を表す「経験」は「未」と結合できない。「無」と同様な現象として、現代中国語においては、「未」の結合語が連体修飾成分として用いられる場合は、単独で使用することができるが、述語の成分になる時は「未」の前に“尚（まだ）”・“还（まだ）”などの副詞による修飾を必要とする。

また、「未」の下接語と結合語は次のような品詞転換機能がみられる。

(7)

(日) わが国におけるスポーツとしての乗馬・馬術は未成熟な段階にあります。

朝日新聞/2010年7月2日

成熟 (VN) → 未成熟 (A)

(中) 我们从一起拖了3年未解决的问题入手, 深入调查研究, 决心弄个水落石出。(未解決な問題)

人民日报/2006年6月4日

解決 (V) → 未解決 (A)

(7)からみられるように、日本語と中国語では下接語における動態類の語から、結合語における様態類への変換が見られる。

5. まとめ

日中両言語における「不・無・非・未」の結合前後の品詞転換機能の有無について示したのが下の表5である。

表5において個々の記号について説明すると結合前後品詞転換機能があるときは「○」、結合前後品詞転換機能がないときは「—」で示し、当該の結合形態が存在しないときは「×」で示した。また下接語の品詞性と造語要素と結合した後の語（結合語）の品詞性の移り変わりについては「V→N」のように示すこととする。

表5. 日中両言語の造語要素と結合前後品詞転換機能の有無の比較

結合形態	結合前後品詞転換機能の有無		結合形態	結合前後品詞転換機能の有無	
	日	中		日	中
不 N	N→A ○	N→A ○	無 N	N→A ○	N→A ○
不 V	V→A ○	—	無 V	V→A ○	V→A ○
不 A	—	—	無 A	—	×

非 N	—	—	未 N	×	×
非 V	V→N	×	未 V	V→A	V→A
	○			○	○
非 A	—	—	未 A	×	×

表 5 から分かる結果を以下にまとめる。

【1】「不 N」・「不 V」・「不 A」の結合形態は、日本語と中国語のいずれの言語ともにみられる。「不 N」の場合については日本語・中国語ともに結合前後で品詞転換機能がみられるが、「不 A」の場合については日本語・中国語ともに品詞転換機能がみられない。また、「不 V」の場合については、日本語には「V→A」の品詞転換がみられるが、中国語においては結合前後で品詞転換がみられない。

【2】「無 N」・「無 V」の場合については、日本語と中国語のいずれも結合前後で品詞転換機能を持っており、「無 A」の場合については、日本語には品詞転換機能がなく、中国語では「無 A」の結合形態がみられない。

【3】「非 N」・「非 V」・「非 A」について結合形態からみると、日本語では3種いずれともみられるが、中国語では「非 V」の結合形態はみられない。また、日本語において「非 V」のときには、「V→N」の品詞転換機能がみられる。

【4】「未 N」・「未 A」の形態は日本語・中国語ともにみられない。一方で「未 V」の形態は日本語・中国語とも存在し、そこでは「V→A」の品詞転換がみられる。

用例出典

1. 「聞蔵 II ビジュアル (知恵蔵)」は 戦後紙面データベース部分 (1945 年～1984 年までの朝日新聞紙面を収録)、1984 年以降の記事データベース部分、現代用語「知恵蔵」最新版など 3 部分が含まれている。本論では 1984 年以降の記事データベースで用例を収集する。

2. <http://paper.people.com.cn>[人民网, 报刊杂志 (新聞雑誌)]

参考文献

天野成昭『日本語の語彙特性 第7巻』(三省堂,2000年)

松村明 監修『大辞泉』(小学館,1995年)

古代汉语词典编写组 編『古代汉语词典／(古代漢語辞典)』(商务印书馆出版,1998年)

汉语大词典编写组『汉语大词典』2.0 光碟版 (商务印书馆(香港),2005年)